

北海道銀杏会 第10回講演会

日時 2011年7月11日(月) 正午～13時30分

場所 ホテルオークラ札幌B1「中国料理 桃花林(とうかりん)」

講師 北海道テレビ放送株式会社 代表取締役会長 荻谷 忠男 様

演題 「テレビ放送の完全デジタル化について」

本日は北海道テレビ放送株式会社代表取締役会長の荻谷忠男様を講師にお迎えし、「テレビ放送の完全デジタル化について」と題して、7月24日の移行日を目前に控えた地上デジタル放送について、その推進理由と今後の活用方法などにつき、お話しいただきました。

テレビがまさに新しい時代を迎えようとしていることが身近に感じられた大変興味深い内容で、またヒット番組の裏話なども織り交ぜられ楽しい講演会でした。(お話しの内容は以下に簡記)。ご講演いただきました荻谷会長ならびにご参加いただきました会員の皆様に厚くお礼申し上げます。

東日本大震災と地デジ

東日本大震災では携帯電話などの地デジワンセグ放送が大活躍しています。

東北・関東地方では通信インフラが断絶し、情報が全く入手できない状態となるなか、地元では唯一の情報源でした。東北総合通信局も『もし地デジ時代になっていなければ、パニックになっていた』とのコメントです。

7月11日からは、テレビ朝日系列24局ネットワークによる被災者向けにふるさと情報の配信がスタートしています。

日本の地デジ方式は移動体を採用

地デジには日本方式の他、欧州方式や米国方式があります。日本方式は『固定テレビ向けの12セグ+移動体向けの1セグ放送』が特長です。南米では2カ国を除き日本方式が採用され、アフリカでも最有力方式となっています。

日本での地デジ導入準備期間は8年間であり、アナログの40年間とくらべ短い期間で進めねばならず、多額の導入費用もかかりました。特に北海道は広大な面積があるため、より苦労を伴うものでしたが、民放各社とNHKが一致協力して乗り越えました。

なぜ国は地デジ化を推進するのか

地デジは電波の有効利用を図ることができますが、最大の目的は世界最強の情報インフラを構築することです。それにより産業政策として、情報通信産業やコンテンツ産業の国際競争力の強化を図ります。幸いにも日本には好材料が揃っています。①時差がないこと。②マイクロウェーブ技術が発達していること。などにより、世界最強の『地上波立国』であるためです。

地デジ・ブロードバンド時代をどう活用するか①②

放送はエリアが限られますが、インターネットとつながることでコンテンツに国境はなくなります。『水曜どうでしょう』という人気番組は、韓国やアメリカなど海外でもインターネットで配信され好評を得ています。(最初は13回放送分で4百万円と低予算だった同番組が、あれよあれよと言う間に全国で

注目を浴びる出世街道。また絶頂期にDVD販売に方向転換したお話しは大変面白かったです)

また台湾で 4000 時間配信された『北海道アワー』と言う番組は、台湾から北海道への観光客を 5 倍に増やしました。

データ放送は、テレビの新しい時代における活用方法として、大きく発展する可能性があります。データ放送は、きめ細かい地域ごとに違う内容を提供できます。現在は郵便番号ごとに区別できるようにする研究を進めています。また、テレビ放送は 24 時間という時間的制限がありますが、データ放送は提供されたデータから、使用者が興味あるものを選択して視聴するため、提供にあたっての上限はありません。

回覧板としての活用や、道内 15 地元紙の情報を東京で見られるなど、世の中を大きく変えていく可能性を秘めた新世代の技術革新と言えます。

(文責 渡辺知博)